

対象校No. 871

注4

学校コード F127310108116

注3

設置年度

令和

5年度

計画の区分： 研究科等連係課程実施基本組織の設置

注1

届出

注2

近畿大学

大学院

実学社会起業イノベーション学位プログラム

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人近畿大学
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

大学院・共通教育学生センター

職名・氏名

キムラ アツヤ
木村 敦也

電話番号

06-4307-3036 (内線: 2151)

(夜間)

06-4307-3036 (内線: 2151)

e-mail

daigakuin@itp.kindai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合: 「〇〇大学」

・学部の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合: 「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合: 「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

実学社会起業イノベーション学位プログラム

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	36
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人近畿大学

(2) 大 学 名

近畿大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒577-8502

大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(セコウ ヒロシゲ) 世耕 弘成 (令和元年9月)		
学 長	(ホソイ ヨシヒコ) 細井 美彦 (平成30年4月)	(マツムラ イタル) 松村 到 (令和6年4月)	任期満了により交代 (令和6年4月1日(6))
学位プログラム長	(ウラカミ タクヤ) 浦上 拓也 (令和5年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
実学社会起業 イノベーション 学位プログラム 修士(学術)	法学関係 経済学関係 工学関係	2 年	30 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	60 人	—	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	30人 (—) [—]	—人 (—) [—]	30人 (—) [—]	—人 (—) [—]	—	0.75倍	—倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	24 (—) [6]	— (—) [—]	64 (—) [51]	— (—) [—]				
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	23 (—) [5]	— (—) [—]	57 (—) [44]	— (—) [—]				
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	21 (—) [3]	— (—) [—]	38 (—) [25]	— (—) [—]				
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	17 (—) [0]	— (—) [—]	29 (—) [20]	— (—) [—]				
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	0.56	—	0.96	—				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。)
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	16 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	29 [20] (ー)	－ [ー] (ー)	
2 年次			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	16 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
3 年次					－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
4 年次							－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
計			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	16 [ー] (ー)	45 [20] (ー)		

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	17 人	1 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	1 人	人	除籍(1人)
令和6年度	45 人	0 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)

・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。

・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{17} = \boxed{5.88} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{45} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<実学社会起業イノベーション学位プログラム>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学 際 科 目	学 際 基 礎 科 目	実学社会課題ベーシック	1前	2			7	5	1			10
		実学社会課題アドバンス	1前	2			1					1
		アントレプレナーシップ概論	1前	2								1
		DX入門	1前	2				3	1			
		アントレプレナー・インターフェース講義Ⅰ	1通	1				1				
		アントレプレナー・インターフェース講義Ⅱ	1通	1				1				
		Globalization and Public Policy	1前	2				1				3
	学 際 応 用 科 目	学際政策形成	2前		1							3
		学際エコノミクス	2前		1		1					
		学際地方自治	2前		1		1					3
小計(10科目)		—	12	3	0	9	7	2	0	0	21	
専 門 科 目	プロブレムインタビュー・データ解析基礎	1前	1				1				2	
	プロブレムインタビュー・データ解析実践	1後	1				1				2	
	国内外アントレプレナー・インターンシップ	1通	2				1					
	アントレプレナー課題解決実践	2前	2			8	4	1			13	
	実学ディープテック・インターフェース講義	2前	2								15	
	事業継承・アトツギベンチャー概論	2前		2			1				3	
	学際ビッチプレゼンテーション特論	2前	2				1				1	
	学際知財戦略	2前	2			1					2	
	Business and Pitch Presentation	2前	2				1					
	学際実学シミュレーション特論	2後	2								1	
	アントレプレナーシップ・アカウンティング	2後	2			1						
	小計(11科目)	—	18	2	0	9	6	1	0	0	25	
特 別 研 究	アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ	1通	4			10	5	1			21	
	アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ	2通	4			10	5	1			21	
	小計(2科目)	—	8	0	0	10	5	1	0	0	21	
合計(23科目)			—	38	5	0	13	9	2	0	0	52
卒業要件及び履修方法												
本課程にあっては、所定の期間在学し、学位プログラムが定める学修目標に沿って設定した授業科目を履修して、教育研究指導を受けることで、以下に示す基準となる単位数以上を修得し、課程を修了することが学位授与の要件である。課程修了にあたっては、特定の課題についての研究成果の審査及び公聴会における口頭発表及び最終試験に合格して、学修目標を達成した学生に対して、修士(学術)の学位を授与する。												
1. 単位数修得基準: 総計40単位以上 ①「アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ」及び「アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ」を含む必修科目38単位を修得する。 ②学際応用科目の選択科目「学際政策形成」・「学際エコノミクス」・「学際地方自治」から2単位を選択して修得とする。												
2. 学修目標: 学修目標1 既存の学問体系を超えて、未来をイメージして挑戦できる 学修目標2 本質的な社会的な課題を抽出できる 学修目標3 社会的な課題に対応する多様な分野の情報を収集して、解決策を主体的に創造できる 学修目標4 センスメイキング能力を備えて、実行できる												

【令和6年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学 際 科 目	学 際 基 礎 科 目	実学社会課題ベーシック	1前	2			4	5	0			7	
		実学社会課題アドバンス	1前	2			1					2	
		アントレプレナーシップ概論	1前	2								2	
		DX入門	1前	2				3	1				
		アントレプレナー・インターフェース講義Ⅰ	1通	1				2					
		アントレプレナー・インターフェース講義Ⅱ	1通	1				2					
		Globalization and Public Policy	1前	2				1				2	
	学 際 応 用 科 目	学際政策形成	2前		1							3	
		学際エコノミクス	2前		1		1						
		学際地方自治	2前		1		1					1	
小計(10科目)			—	12	3	0	6	7	1	0	0	17	
専 門 科 目	プロブレムインタビュー・データ解析基礎	1前	1				1					2	
	プロブレムインタビュー・データ解析実践	1後	1				1					2	
	国内外アントレプレナー・インターンシップ	1通	2				2						
	アントレプレナー課題解決実践	2前	2			3	3	0			6		
	実学ディープテック・インターフェース講義	2前	2								5		
	事業継承・アトツギベンチャー概論	2前		2			1				3		
	学際ビッチプレゼンテーション特論	2前	2				1				1		
	学際知財戦略	2前	2			1					2		
	Business and Pitch Presentation	2前	2			1	0						
	学際実学シミュレーション特論	2後	2								1		
	アントレプレナーシップ・アカウンティング	2後	2			1							
小計(11科目)			—	18	2	0	6	3	0	0	0	17	
特 別 研 究	アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ	1通	4			7	5	0			10		
	アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ	2通	4			7	5	0			10		
	小計(2科目)	—	8	0	0	7	5	0	0	0	10		
合計(23科目)			—	38	5	0	14	10	1	0	0	35	
卒業要件及び履修方法													
本課程にあっては、所定の期間在学し、学位プログラムが定める学修目標に沿って設定した授業科目を履修して、教育研究指導を受けることで、以下に示す基準となる単位数以上を修得し、課程を修了することが学位授与の要件である。課程修了にあたっては、特定の課題についての研究成果の審査及び公聴会における口頭発表及び最終試験に合格して、学修目標を達成した学生に対して、修士(学術)の学位を授与する。													
1. 単位数修得基準: 総計40単位以上 ①「アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ」及び「アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ」を含む必修科目38単位を修得する。 ②学際応用科目の選択科目「学際政策形成」・「学際エコノミクス」・「学際地方自治」から2単位を選択して修得とする。													
2. 学修目標: 学修目標1 既存の学問体系を超えて、未来をイメージして挑戦できる 学修目標2 本質的な社会的な課題を抽出できる 学修目標3 社会的な課題に対応する多様な分野の情報を収集して、 解決策を主体的に創造できる 学修目標4 センスメイキング能力を備えて、実行できる													

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学 際 基 礎 科 目	実学社会課題ベーシック	1前	2			4	3	0			6
	実学社会課題アドバンス	1前	2			1					1
	アントレプレナーシップ概論	1前	2								1
	DX入門	1前	2				3	1			
	アントレプレナー・インターフェース講義1	1通	2				1				
	アントレプレナー・インターフェース講義2	1通	2				1				
	Globalization and Public Policy	1前	2				1				1
	学際政策形成	2前		1							3
	学際エコノミクス	2前		1		1					
	学際地方自治	2前		1		1					3
小計(10科目)			—	12	3	0	6	5	1		15
専 門 科 目	グローバルインタビュー・データ解析基礎	1前	1				1				2
	グローバルインタビュー・データ解析実践	1後	1				1				2
	国内外アントレプレナー・イノベーション	1通	2				1				
	アントレプレナー課題解決実践	2前	2			8	5	0			12
	実学ディープテック・インターフェース講義	2前	2								15
	事業継承・アトツギベンチャー概論	2前		2			1				3
	学際ビッチプレゼンテーション特論	2前	2				1				1
	学際知財戦略	2前	2			1					2
	Business and Pitch Presentation	2前	2				1				
	学際実学シミュレーション特論	2後	2								1
	アントレプレナーシップ・アカウンティング	2後	2			1					
小計(11科目)			—	18	2	0	9	7	0		25
特 別 研 究	アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ	1通	4			4	1	0			7
	アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ	2通	4			10	6	0			20
	小計(2科目)	—	8	0	0	10	6	0	0	0	20
合計(23科目)			—	38	5	0	13	10	1	0	50
卒業要件及び履修方法											
本課程にあつては、所定の期間に在学し、学位プログラムが定める学修目標に沿って設定した授業科目を履修して、教育研究指導を受けることで、以下に示す基準となる単位数以上を修得し、課程を修了することが学位授与の要件である。課程修了にあつては、特定の課題についての研究成果の審査及び公聴会における口頭発表及び最終試験に合格して、学修目標を達成した学生に対して、修士(学術)の学位を授与する。 1. 単位数修得基準: 総計40単位以上 ①「アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ」及び「アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ」を含む必修科目38単位を修得する。 ②学際応用科目の選択科目「学際政策形成」・「学際エコノミクス」・「学際地方自治」から2単位を選択して修得とする。 2. 学修目標: 学修目標1 既存の学問体系を超えて、未来をイメージして挑戦できる 学修目標2 本質的な社会的な課題を抽出できる 学修目標3 社会的な課題に対応する多様な分野の情報を収集して、 解決策を主体的に創造できる 学修目標4 センスマイキング能力を備えて、実行できる											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例: 記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・専任教員の昇格人事（講師→准教授）に伴い、以下の担当授業科目の職位を変更
「アントレプレナー課題解決実践」
- ・担当教員の編成の見直しにより、以下、授業科目の専任教員等の配置、兼任・兼任を変更
「実学社会課題ベーシック」 変更前「教授7」「准教授5」「講師1」「兼10」 変更後「教授4」「准教授3」「講師0」「兼6」
「Globalization and Public Policy」 変更前「兼3」 変更後「兼1」
「アントレプレナー課題解決実践」 変更前「兼13」 変更後「兼12」
- ・入学者数の状況により、以下、授業科目の専任教員等の配置、兼任・兼任を変更
「アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ」 変更前「教授10」「准教授5」「講師1」「兼21」 変更後「教授4」「准教授1」「講師0」「兼7」
- ・上記の変更に伴い、合計教員数が変更
変更前「教授13」「准教授9」「講師2」「兼52」 変更後「教授13」「准教授10」「講師1」「兼50」

【令和6年度】

- ・専任教員採用のため、准教授が1名増（計3科目）
「アントレプレナー・インターフェース講義1」、「アントレプレナー・インターフェース講義2」、「国内外アントレプレナーインターンシップ」
- ・専任教員の昇格人事（准教授→教授）に伴い、以下の担当授業科目の職位を変更（計1科目）
「Business and Pitch Presentation」
- ・担当教員の編成の見直しにより、以下、授業科目の専任教員等の配置、兼任・兼任を変更（計7科目）
「実学社会課題ベーシック」 「教授4」「准教授5」「講師0」「兼7」
「実学社会課題アドバンス」 「兼2」
「アントレプレナーシップ概論」 「兼2」
「Globalization and Public Policy」 「兼2」
「学際地方自治」 「兼1」
「アントレプレナー課題解決実践」 「教授3」「准教授3」「講師0」「兼6」
「実学ディープテック・インターフェース講義」 「兼5」
- ・入学者数の状況により、以下、授業科目の専任教員等の配置、兼任・兼任を変更（計2科目）
「アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ」 「教授7」「准教授5」「講師0」「兼10」
「アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ」 「教授7」「准教授5」「講師0」「兼10」
- ・上記の変更に伴い、合計教員数が変更
教授 「14」
准教授 「10」
講師 「1」
兼任・兼任 「35」

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
19 科目	4 科目	0 科目	23 科目	19 科目 []	4 科目 []	0 科目 []	23 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{23} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	近畿大学短期大学部・近畿大学短期大学部通信教育部（必要面積1,600㎡）と共用。 土地購入のため（5）			
	校 舎 敷 地	630,438㎡ 597,646㎡	146,434㎡	0㎡	776,872㎡ 744,080㎡				
	運動場用地	98,741㎡ 98,831㎡	321,841㎡	0㎡	420,582㎡ 420,672㎡				
	小 計	729,179㎡ 696,477㎡	468,275㎡	0㎡	1,197,454㎡ 1,164,752㎡				
	そ の 他	1,760,279㎡ 1,806,419㎡	0㎡	0㎡	1,760,279㎡ 1,806,419㎡				
	合 計	2,489,458㎡ 2,502,896㎡	468,275㎡	0㎡	2,957,733㎡ 2,971,171㎡				
(2)校舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	近畿大学短期大学部・近畿大学短期大学部通信教育部（必要面積5,500㎡）と共用。 建物解体撤去のため（5）				
		344,014㎡ 344,379㎡ (343,031㎡) (334,693㎡)	76,974㎡ (76,974㎡) (95,308㎡)	1,900㎡ (1,900㎡)		422,888㎡ 423,253㎡ (421,905㎡) (431,900㎡)			
(3)教室等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 改修工事及び用途変更による変更（6） 改修工事による変更（6）→			
	336室 334室 335室	283室 271室 269室	640室 643室 646室	70室 82室 104室 (補助職員 106人) (補助職員 88人) (補助職員 90人)	3室 8室 (補助職員 2人)				
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		令和6年4月 専任特任准教授1名を新規採用のため（6）			
		実学社会起業イノベーション学位プログラム		2 1 室					
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機械・器具	標 本	図書館改修工事および人事異動に伴い什器を新規購入したため（6） 図書館改修工事人事異動に伴い什器を新規購入したため（5）		
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕					電子ジャーナル	点
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点			
	実学社会起業イノベーション学位プログラム	2,168,065 [772,333] 2,179,008 [775,854] 2,378,415 [868,452] (2,162,924 [772,202]) (2,168,567 [775,428]) (2,350,499 [862,659])	112,122 [83,300] 116,903 [87,430] 113,375 [84,316] (111,420 [82,600]) (115,316 [85,847]) (113,176 [84,120])	92,502 [73,966] 97,236 [77,907] 91,674 [73,520] (91,803 [73,267]) (95,655 [76,325]) (91,479 [73,324])	47,086 47,441 49,202 (46,777) (47,455) (48,719)	58,404 59,019 53,541 (57,843) (57,940) (54,156)		625 618 569 (626) (584)	
計	2,168,065 [772,333] 2,179,008 [775,854] 2,378,415 [868,452] (2,162,924 [772,202]) (2,168,567 [775,428]) (2,350,499 [862,659])	112,122 [83,300] 116,903 [87,430] 113,375 [84,316] (111,420 [82,600]) (115,316 [85,847]) (113,176 [84,120])	92,502 [73,966] 97,236 [77,907] 91,674 [73,520] (91,803 [73,267]) (95,655 [76,325]) (91,479 [73,324])	47,086 47,441 49,202 (46,777) (47,455) (48,719)	58,404 59,019 53,541 (57,843) (57,940) (54,156)	625 618 569 (626) (584)			
(6)図書館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		図書館改修工事のため（6） 図書館改修工事のため（5）		
	28,842 28,642 28,842		5,406 5,539 5,530		2,375,530 2,374,752 2,548,680				
(7)体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	24,350㎡		屋内プール		野球場・武道場				
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	・「教員1人当り研究費等」は研究科単位での算出不能なため、学部との合計で算出している ・「図書購入費」は電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト等）を含む 開設年度において、令和5年度予算を基に算出し、完成年度において、令和6年度予算を基に算出している（6） 開設前年度において、令和4年度予算を基に算出 開設年度以降の経費について、実学社会起業イノベーションの令和5年度予算額を基礎として、再算出したため。（5）
		教員1人当り研究費等	197千円 1,144千円	637千円 197千円 1,144千円	図書購入費	0千円 6,102千円	0千円 6,192千円	0千円 6,192千円	
		共同研究費等	0千円 495千円	0千円 495千円	設備購入費	0千円 3,024千円	0千円 5,034千円	0千円 4,854千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	千円 千円 千円 千円 千円	
		1,025千円	875千円	千円	千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、寄付金、補助金、資産運用事業収入等で維持する。					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	近 畿 大 学								収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度			
法学部	4	500	-	2,000	-	1.06	1.02	-	-	大阪府東大阪市新上小阪228番3号		
法律学科	4	500	-	2,000	学士(法学)	1.06	1.02	-	昭和25	同上		
経済学部	4	760	-	3,040	-	1.07	1.04	-	-	大阪府東大阪市新上小阪228番3号		
経済学科	4	420	-	1,680	学士(経済学)	1.07	1.05	-	平成15	同上		
総合経済政策学科	4	170	-	680	学士(経済政策学)	1.05	1.01	-	平成15	同上		
国際経済学科	4	170	-	680	学士(国際経済学)	1.07	1.03	-	平成18	同上		
経営学部	4	1,340	-	5,360	-	1.07	1.04	-	-	大阪府東大阪市小野江3丁目4番1号		
経営学科	4	585	-	2,340	-	1.06	1.03	-	-	同上		
昼間主コース	4	425	-	1,700	学士(経営学)	1.10	1.07	-	平成15	同上		
夜間主コース	4	160	-	640	学士(経営学)	0.96	0.95	-	平成15	同上		
商学科	4	405	-	1,620	学士(商学)	1.08	1.05	-	平成15	同上		
会計学科	4	175	-	700	学士(会計学)	1.09	1.05	-	平成18	同上		
キャリア・マネジメント学科	4	175	-	700	学士(キャリア・マネジメント学)	1.06	1.03	-	平成19	同上		
理工学部	4	1,040	-	4,060	-	1.07	1.03	-	-	大阪府東大阪市小野江3丁目4番1号		
理学科	4	225	-	900	学士(理学)	1.10	1.04	-	平成14	同上		
生命科学科	4	95	-	380	学士(理学)	1.06	1.04	-	平成14	同上		
応用化学科	4	130	-	520	学士(工学)	1.05	1.01	-	平成14	同上		
機械工学科	4	200	-	800	学士(工学)	1.07	1.03	-	平成14	同上		
電気電子通信工学科	4	170	-	700	学士(工学)	1.14	1.10	-	平成14	同上	令和4年度から入学定員変更(20減)	
社会環境工学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.03	1.00	-	平成14	同上		
情報学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成14	同上	令和4年度学生募集停止	
エネルギー物質学科	4	120	-	360	学士(理工学)	0.93	-	令和4	令和4	同上		
建築学部	4	280	-	1,120	-	1.11	1.06	-	-	大阪府東大阪市小野江3丁目4番1号		
建築学科	4	280	-	1,120	学士(建築学)	1.11	1.06	-	平成23	同上		
薬学部	-	190	-	1,060	-	1.02	1.00	-	-	大阪府東大阪市小野江3丁目4番1号		
医療薬学科	6	150	-	900	学士(薬学)	1.01	0.99	-	平成18	同上		
創薬科学科	4	40	-	160	学士(薬科学)	1.05	1.03	-	平成18	同上		
文芸学部	4	515	-	2,060	-	1.08	1.03	-	-	大阪府東大阪市新上小阪228番3号		
文学科	4	180	-	720	-	1.09	1.05	-	-	同上		
日本文学専攻	4	120	-	480	学士(文学)	1.10	1.05	-	平成元	同上		
英語英米文学専攻	4	60	-	240	学士(文学)	1.08	1.04	-	平成元	同上		

芸術学科	4	115	-	460	-	1.06	1.01	-	-	同上	
舞台芸術専攻	4	50	-	200	学士 (文芸学)	1.06	1.00	-	平成元	同上	
造形芸術専攻	4	65	-	260	学士 (文芸学)	1.06	1.02	-	平成元	同上	
文化・歴史学科	4	140	-	560	学士 (文学)	1.06	1.01	-	平成元	同上	
文化デザイン学科	4	80	-	320	学士 (文芸学)	1.10	1.08	-	平成28	同上	
総合社会学部	4	510	-	2,040	-	1.07	1.04	-	-	大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
総合社会学科	4	510	-	2,040	学士 (総合社会学)	1.07	1.04	-	平成22	同上	
国際学部	4	500	-	2,000	-	1.08	1.04	-	-	大阪府東大阪市小坂江3丁目4番1号	
国際学科	4	500	-	2,000	学士 (国際学)	1.08	1.04	-	平成28	同上	
情報学部	4	330	-	990	-	1.02	-	-	-	大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
情報学科	4	330	-	990	学士 (工学)	1.02	-	令和4	令和4	同上	
農学部	4	680	-	2,720	-	1.05	1.04	-	-	奈良県奈良市中町3327番204	
農業生産科学科	4	120	-	480	学士 (農学)	1.04	1.02	-	平成17	同上	
水産学科	4	120	-	480	学士 (農学)	1.12	1.11	-	昭和33	同上	
応用生命化学科	4	120	-	480	学士 (農学)	1.06	1.05	-	平成17	同上	
食品栄養学科	4	80	-	320	学士 (農学)	1.01	1.00	-	昭和42	同上	
環境管理学科	4	120	-	480	学士 (農学)	1.08	1.05	-	平成17	同上	
生物機能科学科	4	120	-	480	学士 (農学)	1.00	0.98	-	平成17	同上	
医学部	6	112	-	670	-	1.05	0.99	-	-	大阪府大阪狭山市大野東377番2	平成27～令和元年度のみの臨時定員変更 (20増)
医学科	6	112	-	670	学士 (医学)	1.05	0.99	令和6	昭和49	同上	令和2・3年度のみの臨時定員変更 (12増) 令和3年度のみの臨時定員変更 (5増) 令和4～6年度のみの臨時定員変更 (17増)
生物理工学部	4	485	-	1,940	-	1.01	0.98	-	-	和歌山県紀の川市西三谷930	
生物工学科	4	90	-	360	学士 (工学)	1.06	1.03	-	平成5	同上	
食品安全工学科	4	90	-	360	学士 (工学)	0.96	0.93	-	平成22	同上	
遺伝子工学科	4	90	-	360	学士 (工学)	1.03	1.01	-	平成9	同上	
生命情報工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.02	0.99	-	平成22	同上	
人間環境デザイン工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	0.98	0.97	-	平成22	同上	
医用工学科	4	55	-	220	学士 (工学)	0.98	0.95	-	平成22	同上	
工学部	4	545	-	2,180	-	1.04	1.02	-	-	広島県東広島市高屋うめの辺1番	
化学生命工学科	4	75	-	320	学士 (工学)	0.91	0.90	-	昭和34	同上	令和5年度から入学定員変更 (10減)
機械工学科	4	100	-	400	学士 (工学)	1.04	1.00	-	昭和34	同上	
情報学科	4	100	-	380	学士 (工学)	1.13	1.09	-	昭和37	同上	令和5年度から入学定員変更 (10増)
建築学科	4	100	-	400	学士 (工学)	1.02	1.01	-	昭和40	同上	
電子情報工学科	4	95	-	370	学士 (工学)	1.12	1.10	-	平成4	同上	令和5年度から入学定員変更 (5増)
ロボティクス学科	4	75	-	310	学士 (工学)	1.04	1.00	-	平成4	同上	令和5年度から入学定員変更 (5減)

産業理工学部	4	420	-	1,680	-	1.02	1.00	-	-	福岡県飯塚市柏の森11番6	
生物環境化学科	4	65	-	280	学士 (工学)	1.00	0.99	-	平成16	同上	令和5年度から入学定員変更(10減)
電気電子工学科	4	65	-	260	学士 (工学)	1.02	1.00	-	平成16	同上	
建築・デザイン学科	4	95	-	370	学士 (工学)	0.99	0.96	-	平成16	同上	令和5年度から入学定員変更(5増)
情報学科	4	75	-	290	学士 (工学)	1.11	1.08	-	平成16	同上	令和5年度から入学定員変更(5増)
経営ビジネス学科	4	120	-	480	学士 (経営ビジネス)	1.01	0.98	-	平成16	同上	
通信教育法学部	4	2,000	-	8,000	-	0.21	-	-	-	大阪府東大阪市小野江3丁目4番1号	
法律学科	4	2,000	-	8,000	学士 (法学)	0.21	-	-	昭和35	同上	
大学全体	-	10,207	-	40,920	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
- ・学部・学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
- ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
- 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
- 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
- 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
- なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
- ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<実学社会起業イノベーション学位プログラム>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 雅昭 ＜令和5年4月＞ 博士(法学)
		学際知財戦略
専	教授	衣笠 葉子 ＜令和5年4月＞ 修士(法学)
		実学社会課題ベーシック
専	教授	吉田 忠彦 ＜令和5年4月＞ 商学修士
		実学社会課題アドバンス アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	古殿 幸雄 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	團 泰雄 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授 (学位プログラム 長)	浦上 拓也 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ 学際地方自治 アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	安酸 建二 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ・アカウンティ ング アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 雅昭 ＜令和5年4月＞ 博士(法学)
		学際知財戦略
専	教授	衣笠 葉子 ＜令和5年4月＞ 修士(法学)
		実学社会課題ベーシック
専	教授	吉田 忠彦 ＜令和5年4月＞ 商学修士
		実学社会課題アドバンス アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	古殿 幸雄 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	團 泰雄 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授 (学位プログラム 長)	浦上 拓也 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ 学際地方自治 アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	安酸 建二 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ・アカウン ティング アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

【令和6年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 雅昭 ＜令和5年4月＞ 博士(法学)
		学際知財戦略
専	教授	衣笠 葉子 ＜令和5年4月＞ 修士(法学)
専	教授	吉田 忠彦 ＜令和5年4月＞ 商学修士
		実学社会課題アドバンス
専	教授	古殿 幸雄 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	團 泰雄 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		実学社会課題ベーシック
専	教授 (学位プログラム 長)	浦上 拓也 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ 学際地方自治 アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	安酸 建二 ＜令和5年4月＞ 博士(経営学)
		アントレプレナーシップ・アカウンティ ング

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	仲林 真子 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	山内 康弘 ＜令和5年4月＞ 博士（国際公共政策）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	相馬 利行 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		学際エコノミクス
専	教授	佐々木 俊一郎 ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	河上 哲 ＜令和5年4月＞ 博士（社会工学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	片岡 隆之 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	村上 礼子 ＜令和5年4月＞ 修士（商学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	呉 結人 ＜令和5年4月＞ 博士（国際公共政策）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	仲林 真子 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	山内 康弘 ＜令和5年4月＞ 博士（国際公共政策）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	相馬 利行 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		学際エコノミクス
専	教授	佐々木 俊一郎 ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	河上 哲 ＜令和5年4月＞ 博士（社会工学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	片岡 隆之 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	村上 礼子 ＜令和5年4月＞ 修士（商学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	呉 結人 ＜令和5年4月＞ 博士（国際公共政策）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	仲林 真子 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	山内 康弘 ＜令和5年4月＞ 博士（国際公共政策）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	相馬 利行 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		学際エコノミクス
専	教授	佐々木 俊一郎 ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	河上 哲 ＜令和5年4月＞ 博士（社会工学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	教授	片岡 隆之 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	村上 礼子 ＜令和5年4月＞ 修士（商学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	呉 結人 ＜令和5年4月＞ 博士（国際公共政策）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	張 琳 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	永島 史弥 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	木村 有寿 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	阪口 龍彦 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		DX入門
専	准教授	加島 智子 ＜令和5年4月＞ 博士（情報科学）
		DX入門
専	特任 准教授	山本 まどか ＜令和5年4月＞ 博士（社会健康医学）
		実学社会課題ベーシック DX入門 アントレプレナー・インターフェース講義1 アントレプレナー・インターフェース講義2 Globalization and Public Policy プロブレムインタビュ・データ解析基礎 プロブレムインタビュ・データ解析実践 国内外アントレプレナー・インターンシップ 事業継承・アトツギベンチャー概論 学際ピッチプレゼンテーション特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	張 琳 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	永島 史弥 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	木村 有寿 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	阪口 龍彦 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		DX入門
専	准教授	加島 智子 ＜令和5年4月＞ 博士（情報科学）
		DX入門
専	特任 准教授	佐々木 まどか ＜令和5年4月＞ 博士（社会健康医学）
		実学社会課題ベーシック DX入門 アントレプレナー・インターフェース講義1 アントレプレナー・インターフェース講義2 Globalization and Public Policy プロブレムインタビュ・データ解析基礎 プロブレムインタビュ・データ解析実践 国内外アントレプレナー・インターンシップ 事業継承・アトツギベンチャー概論 学際ピッチプレゼンテーション特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	張 琳 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック
専	准教授	永島 史弥 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	木村 有寿 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	准教授	阪口 龍彦 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		DX入門
専	准教授	加島 智子 ＜令和5年4月＞ 博士（情報科学）
		DX入門
専	特任 准教授	佐々木 まどか ＜令和5年4月＞ 博士（社会健康医学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学社会課題ベーシック アントレプレナー・インターフェース講義1 アントレプレナー・インターフェース講義2 プロブレムインタビュ・データ解析基礎 プロブレムインタビュ・データ解析実践 国内外アントレプレナー・インターンシップ 事業継承・アトツギベンチャー概論 学際ピッチプレゼンテーション特論
専	特任 准教授	伊藤 ゆかり ＜令和6年4月＞ 博士（国際公共政策）
		アントレプレナー・インターフェース講義1 アントレプレナー・インターフェース講義2 Globalization and Public Policy DX入門 実学社会課題ベーシック アントレプレナー課題解決実践 国内外アントレプレナー・インターンシップ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	ジョシュア・コーヘン ＜令和5年4月＞ 修士（MSc_TESOL）
		Business and Pitch Presentation
専	講師	石村 雄一 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	講師	中村 一美 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		DX入門
兼任	教授	竹原 幸生 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	森本 健志 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	杉浦 麗子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	多賀 淳 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	久 隆浩 ＜令和5年4月＞ 工学博士
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	ジョシュア・コーヘン ＜令和5年4月＞ 修士（MSc_TESOL）
		Business and Pitch Presentation
専	准教授	石村 雄一 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	講師	中村 一美 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		DX入門
兼任	教授	竹原 幸生 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	森本 健志 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	杉浦 麗子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	多賀 淳 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	久 隆浩 ＜令和5年4月＞ 工学博士
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	ジョシュア・コーヘン ＜令和5年4月＞ 修士（MSc_TESOL）
		Business and Pitch Presentation
専	准教授	石村 雄一 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
専	講師	中村 一美 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		DX入門
兼任	教授	竹原 幸生 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	森本 健志 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	杉浦 麗子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	多賀 淳 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		実学ディープテック・インターフェース講義
兼任	教授	久 隆浩 ＜令和5年4月＞ 工学博士
		実学社会課題ベーシック アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	藤田 香 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	畝川 憲之 ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	田茂井 政宏 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
		実学ディープテック・インターフェース 講義
兼任	教授	財満 信宏 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
		実学ディープテック・インターフェース 講義
兼任	教授	西尾 和人 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		実学ディープテック・インターフェース 講義
兼任	教授	松本 和也 ＜令和5年4月＞ 農学博士
		プロブレムインタビュー・データ解析基礎 プロブレムインタビュー・データ解析実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	古菌 勉 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		実学ディープテック・インターフェース 講義
兼任	教授	中西 章 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	藤田 香 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
兼任	教授	畝川 憲之 ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	田茂井 政宏 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
		実学ディープテック・インター フェース講義
兼任	教授	財満 信宏 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
		実学ディープテック・インター フェース講義
兼任	教授	西尾 和人 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		実学ディープテック・インター フェース講義
兼任	教授	松本 和也 ＜令和5年4月＞ 農学博士
		プロブレムインタビュー・データ解析基礎 プロブレムインタビュー・データ解析実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	古菌 勉 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		実学ディープテック・インター フェース講義
兼任	教授	中西 章 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	藤田 香 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	畝川 憲之 ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	田茂井 政宏 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
兼任	教授	財満 信宏 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
兼任	教授	西尾 和人 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
兼任	教授	松本 和也 ＜令和5年4月＞ 農学博士
		プロブレムインタビュー・データ解析基礎 プロブレムインタビュー・データ解析実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	古菌 勉 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
兼任	教授	中西 章 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	尾崎 嘉彦 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	松本 幸三 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		実学ディープテック・インターフェース 講義
兼任	教授	今宿 亙 ＜令和6年4月＞
		実学ディープテック・インターフェース 講義
兼任	教授	岡 伸人 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	家戸 敬太郎 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	熊本 理抄 ＜令和5年4月＞ 修士（人間科学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	森川 敏生 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	米澤 康滋 ＜令和5年4月＞ 工学博士
		プロブレムインタビュー・データ解析基礎 プロブレムインタビュー・データ解析実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	尾崎 嘉彦 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	松本 幸三 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		実学ディープテック・インター フェース講義
兼任	教授	今宿 亙 ＜令和6年4月＞
		実学ディープテック・インター フェース講義
兼任	教授	岡 伸人 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	家戸 敬太郎 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	熊本 理抄 ＜令和5年4月＞ 修士（人間科学）
兼任	教授	森川 敏生 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	黒坂 哲 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		プロブレムインタビュー・データ解析基礎 プロブレムインタビュー・データ解析実践

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	尾崎 嘉彦 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
兼任	教授	松本 幸三 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
兼任	教授	今宿 亙 ＜令和6年4月＞
兼任	教授	岡 伸人 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
兼任	教授	家戸 敬太郎 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		実学ディープテック・インターフェース講義
兼任	教授	熊本 理抄 ＜令和5年4月＞ 修士（人間科学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	森川 敏生 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	黒坂 哲 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		プロブレムインタビュー・データ解析基礎 プロブレムインタビュー・データ解析実践

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	加藤 博己 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 学際ピッチプレゼンテーション特論 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	奥田 祥子 ＜令和5年4月＞ 博士（政策・マスメディア）
		実学社会課題ベーシック
兼任	准教授	中井 英隆 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	長井 紀章 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	桑名 恵 ＜令和5年4月＞ 博士（人間科学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	准教授	白木 琢磨 ＜令和5年4月＞ 博士（人間・環境学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	宮下 尚之 ＜令和5年4月＞ 博士（理学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	高橋 圭一 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	加藤 博己 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		アントレプレナー課題解決実践 学際ピッチプレゼンテーション特論 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	奥田 祥子 ＜令和5年4月＞ 博士（政策・マスメディア）
		実学社会課題ベーシック
兼任	教授	中井 英隆 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	長井 紀章 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	桑名 恵 ＜令和5年4月＞ 博士（人間科学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	准教授	白木 琢磨 ＜令和5年4月＞ 博士（人間・環境学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	宮下 尚之 ＜令和5年4月＞ 博士（理学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	高橋 圭一 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	加藤 博己 ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		学際ピッチプレゼンテーション特論
兼任	教授	奥田 祥子 ＜令和5年4月＞ 博士（政策・マスメディア）
兼任	教授	中井 英隆 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
兼任	教授	長井 紀章 ＜令和5年4月＞ 博士（薬学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	教授	桑名 恵 ＜令和5年4月＞ 博士（人間科学）
兼任	准教授	白木 琢磨 ＜令和5年4月＞ 博士（人間・環境学）
兼任	准教授	宮下 尚之 ＜令和5年4月＞ 博士（理学）
兼任	准教授	高橋 圭一 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	春田 正和 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	李 嘉永 ＜令和5年4月＞ 修士（法学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	准教授	藤本 美香 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	講師	池田 篤俊 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース 講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	講師	宍戸 信之 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	講師	瀬戸徐 映里奈 ＜令和5年4月＞ 修士（農学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	講師	野池 雅人 ＜令和5年4月＞ 修士（人間科学）
		実学社会課題アドバンス
兼任	講師	富樫 佳織 ＜令和5年4月＞ 経営管理修士（MBA）
		アントレプレナーシップ概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	春田 正和 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	准教授	李 嘉永 ＜令和5年4月＞ 修士（法学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	准教授	藤本 美香 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
兼任	准教授	池田 篤俊 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インター フェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	講師	宍戸 信之 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	講師	瀬戸徐 映里奈 ＜令和5年4月＞ 修士（農学）
兼任	講師	野池 雅人 ＜令和5年4月＞ 修士（人間科学）
		実学社会課題アドバンス
兼任	講師	富樫 佳織 ＜令和5年4月＞ 経営管理修士（MBA）
		アントレプレナーシップ概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	春田 正和 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
兼任	准教授	李 嘉永 ＜令和5年4月＞ 修士（法学）
兼任	准教授	藤本 美香 ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	准教授	池田 篤俊 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ 実学ディープテック・インターフェース講義 アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	講師	宍戸 信之 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		アントレプレナー課題解決実践 実学ディープテック・インターフェース アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ
兼任	講師	瀬戸徐 映里奈 ＜令和5年4月＞ 修士（農学）
		実学社会課題ベーシック
兼任	講師	野池 雅人 ＜令和5年4月＞ 修士（人間科学）
		実学社会課題アドバンス
兼任	講師	富樫 佳織 ＜令和5年4月＞ 経営管理修士（MBA）
		アントレプレナーシップ概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	Yixin YAO ＜令和5年4月＞ 博士（Economics）
		Globalization and Public Policy
兼任	講師	原田 徹也 ＜令和5年4月＞ 修士（PublicAdministration・経済学）
		Globalization and Public Policy
兼任	講師	Gabriel Lele ＜令和5年4月＞ 博士（PolicyandGovernance）
		Globalization and Public Policy
兼任	講師	福田 健一郎 ＜令和6年4月＞ 学士（政治学）
		学際政策形成
兼任	講師	松村 隆司 ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		学際政策形成
兼任	講師	関 隆宏 ＜令和6年4月＞ 学士（環境科学）
		学際政策形成
兼任	講師	岩渕 光生 ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		学際地方自治
兼任	講師	加藤 裕之 ＜令和6年4月＞ 博士（環境科学）
		学際地方自治

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	Yixin YAO ＜令和5年4月＞ 博士（Economics）
		Globalization and Public Policy
兼任	講師	福田 健一郎 ＜令和6年4月＞ 学士（政治学）
		学際政策形成
兼任	講師	松村 隆司 ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		学際政策形成
兼任	講師	関 隆宏 ＜令和6年4月＞ 学士（環境科学）
		学際政策形成
兼任	講師	岩渕 光生 ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		学際地方自治
兼任	講師	加藤 裕之 ＜令和6年4月＞ 博士（環境科学）
		学際地方自治

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	Yixin YAO ＜令和5年4月＞ 博士（Economics）
		Globalization and Public Policy
兼任	講師	原田 徹也 ＜令和5年4月＞ 修士（PublicAdministration・経済学）
		Globalization and Public Policy
兼任	講師	福田 健一郎 ＜令和6年4月＞ 学士（政治学）
		学際政策形成
兼任	講師	松村 隆司 ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		学際政策形成
兼任	講師	関 隆宏 ＜令和6年4月＞ 学士（環境科学）
		学際政策形成
兼任	講師	加藤 裕之 ＜令和6年4月＞ 博士（環境科学）
		学際地方自治

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	永長 大典 ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		学際地方自治
兼任	講師	山本 尚 ＜令和6年4月＞ 教育学士
		学際知財戦略
兼任	講師	西川 靖俊 ＜令和6年4月＞
		学際知財戦略
兼任	講師	藤岡 資正 ＜令和6年9月＞ 博士 (ManagementStudies)
		学際実学シミュレーション特論
兼任	講師	丹下 憲孝 ＜令和6年4月＞ 修士 (M. Arch.)
		事業継承・アトツギベンチャー概論
兼任	講師	川本 武 ＜令和6年4月＞ 農学修士
		事業継承・アトツギベンチャー概論
兼任	講師	角道 裕司 ＜令和6年4月＞ 経済学学士
		事業継承・アトツギベンチャー概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	永長 大典 ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		学際地方自治
兼任	講師	山本 尚 ＜令和6年4月＞ 教育学士
		学際知財戦略
兼任	講師	西川 靖俊 ＜令和6年4月＞
		学際知財戦略
兼任	講師	藤岡 資正 ＜令和6年9月＞ 博士 (ManagementStudies)
		学際実学シミュレーション特論
兼任	講師	丹下 憲孝 ＜令和6年4月＞ 修士 (M. Arch.)
		事業継承・アトツギベンチャー概論
兼任	講師	川本 武 ＜令和6年4月＞ 農学修士
		事業継承・アトツギベンチャー概論
兼任	講師	角道 裕司 ＜令和6年4月＞ 経済学学士
		事業継承・アトツギベンチャー概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山本 尚 ＜令和6年4月＞ 教育学士
		学際知財戦略
兼任	講師	西川 靖俊 ＜令和6年4月＞
		学際知財戦略
兼任	講師	藤岡 資正 ＜令和6年9月＞ 博士 (ManagementStudies)
		学際実学シミュレーション特論
兼任	講師	丹下 憲孝 ＜令和6年4月＞ 修士 (M. Arch.)
		事業継承・アトツギベンチャー概論
兼任	講師	川本 武 ＜令和6年4月＞ 農学修士
		事業継承・アトツギベンチャー概論
兼任	講師	角道 裕司 ＜令和6年4月＞ 経済学学士
		事業継承・アトツギベンチャー概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高瀬 進 ＜令和6年4月＞ 博士（経営学）
		アントレプレナーシップ概論
兼任	講師	藤田 カ ＜令和6年4月＞ 修士（公共政策）
		実学社会課題アドバンス

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。

その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。

- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
- ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

□昇任人事により、中井英隆准教授・長井紀章准教授・桑名恵准教授を教授に、石村雄一講師・池田篤俊講師を准教授に変更。
□専任教員の山本まどか特任准教授が旧姓使用のため、佐々木まどかに名称変更。
□兼任教員の米澤康滋教授が自己都合により就任辞退のため、黒坂哲准教授に変更。
□兼任教員の原田徹也、Gabriel Leleが自己都合により就任辞退。
□実学社会課題ベーシックの教員配置については、届出書類の授業科目の概要に記載の通り、各テーマにおいて年度毎にローテーションを組んでいるため、今年度は専任教員の衣笠葉子教授、浦上拓也教授、山内康弘教授、河上哲教授、村上礼子准教授、呉詒人准教授、佐々木まどか特任准教授が、兼任教員から杉浦麗子教授、久隆浩教授、畠川憲之教授、桑名恵教授、奥田祥子教授、李嘉永准教授の合計13名が担当している。
□アントレプレナーシップ特別研究Ⅰの教員配置については、届出書類の授業科目の概要に記載の通り、複数指導教員体制を構築しているが、入学者が17名であったことから専任教員の古殿幸雄教授、浦上拓也教授、仲林真子教授、山内康弘教授、呉詒人准教授が、兼任教員から竹原幸生教授、杉浦麗子教授、長井紀章教授、久隆浩教授、松本和也教授、中西章教授、穴戸信之講師の合計12名が担当することとなった。

【令和6年度】

□昇任人事により、ジョシユア・コーヘンを教授に変更。
□兼任教員として伊藤ゆかり特任准教授、兼任教員の高瀬進講師、藤田力講師を新規採用。
□専任教員として伊藤ゆかり特任准教授が新規採用されたことに伴い、佐々木まどか特任准教授が担当していたDX入門、Globalization and Public Policyが伊藤ゆかり特任准教授の担当になった。
□アントレプレナー・インターフェース講義1、アントレプレナー・インターフェース講義2、国内外アントレプレナーインタナショナルの担当に伊藤ゆかり特任准教授を追加。
□令和5年度就任辞退された兼任教員の原田徹也講師が新規令和6年度就任された。
□兼任教員の岩淵 先生、永長 大典が自己都合により就任辞退。
それに伴い、学際地方自治の授業科目は専任教員の浦上拓也教授、兼任の加藤裕之講師が担当することとなった。
□佐々木まどか特任准教授、穴戸信之講師に授業科目（アントレプレナー課題解決実践）が追加になった。
□実学社会課題ベーシックの教員配置については、届出書類の授業科目の概要に記載の通り、各テーマにおいて年度毎にローテーションを組んでいるため、今年度は専任教員の園泰雄教授、浦上拓也教授、佐々木俊一郎教授、河上哲教授、張琳准教授、永島史弥准教授、佐々木まどか特任准教授、伊藤ゆかり特任准教授、石村雄一准教授が、兼任教員から杉浦麗子教授、久隆浩教授、藤田香教授、畠川憲之教授、熊本理抄教授、藤本美香准教授、瀬戸徐映里奈講師の合計16名が担当している。
それに伴い、今年度は専任教員の衣笠葉子教授、山内康弘教授、村上礼子准教授、呉詒人准教授が、兼任教員の奥田祥子教授、桑名恵教授、李嘉永准教授が担当から外れることとなった。
□アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ、Ⅱの教員配置については、届出書類の授業科目の概要に記載の通り、複数指導教員体制を構築しているが、2年生（16名）、1年生（29名）合計45名であったことから、今年度は専任教員の古殿幸雄教授、浦上拓也教授、仲林真子教授、山内康弘教授、佐々木俊一郎教授、河上哲教授、片岡隆之教授、村上礼子准教授、呉詒人准教授、永島史弥准教授、木村有寿准教授、石村雄一准教授が、兼任教員から竹原幸生教授、森本健志教授、杉浦麗子教授、久隆浩教授、松本和也教授、中西章教授、森川敏生教授、長井紀章教授、池田篤俊准教授、穴戸信之講師の合計22名が担当することとなった。
それに伴い、今年度は専任教員から吉田忠彦教授、園泰雄教授、安酸健二教授、張琳准教授が、兼任教員から多賀淳教授、尾崎嘉彦教授、岡伸人教授、家戸敬太郎教授、加藤博己教授、中井英隆教授、白木琢磨准教授、宮下尚之准教授、高橋圭一准教授、春田正和准教授がアントレプレナーシップ特別研究Ⅱの担当から外れることとなった。
□アントレプレナー課題解決実践の教員配置については、届出書類の授業科目の概要に記載の通り、複数指導教員体制を構築しているため、今年度は専任教員の浦上拓也教授、仲林真子教授、河上哲教授、呉詒人准教授、佐々木まどか特任准教授、伊藤ゆかり特任准教授が、兼任教員から竹原幸生教授、杉浦麗子教授、松本和也教授、中西章教授、長井紀章教授、穴戸信之講師の合計12名が担当している。
それに伴い、今年度は専任教員から吉田忠彦教授、園泰雄教授、安酸健二教授、山内康弘教授、佐々木俊一郎教授、村上礼子准教授、張琳准教授、永島史弥准教授、石村雄一准教授が、兼任教員から多賀淳教授、久隆浩教授、尾崎嘉彦教授、家戸敬太郎教授、森川敏生教授、加藤博己教授、白木琢磨准教授、池田篤俊准教授が外れることとなった。
□実学ディープテック・インターフェース講義の教員配置については各テーマにおいて年度毎にローテーションを組んでいるため、今年度は兼任教員から竹原幸生教授、多賀淳教授、家戸敬太郎教授、長井紀章教授、池田篤俊准教授の5名が担当となった。
それに伴い、今年度は兼任教員から田茂井政宏教授、財満信宏教授、西尾和人教授、松本和也教授、古園勉教授、尾崎嘉彦教授、松本幸三教授、今宿互教授、森川敏生教授、白木琢磨准教授が担当から外れることとなった。
□兼任の高瀬進講師はアントレプレナーシップ概論を担当、藤田力講師は実学社会課題アドバンスを担当することとなった。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5 名	4 名	4 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	助手（A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	助手（B'）
13	9	2	0	24	0	14	10	1	0	25	0
(13)	(10)	(1)	(0)	(24)	(0)						
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
16	10	8	0			19	12	7	0		
(16)	(10)	(8)	(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	助手（C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	助手（D'）
14	10	1	0	25	0	14	10	1	0	25	0
[1]	[1]	[Δ1]	[0]	[1]	[0]	[1]	[1]	[Δ1]	[0]	[1]	[0]
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
19	12	7	0			19	12	7	0		
[3]	[2]	[Δ1]	[0]			[3]	[2]	[Δ1]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年 齢 構 成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
66 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{25}{24} = \boxed{104.16} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- （注）・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「（3）- ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- （注）・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{24} = 0 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
		該当なし											
合 計					後任補充状況の集計								
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和4年度)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）（６）」と記載してください。

【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<実学社会起業イノベーション学位プログラム>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特記事項なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

① IR・教育支援センター運営委員会（旧教育改革推進センター運営委員会）を設置

令和5年4月1日より教育改革プランの審議・実行の迅速化を目的とし、教育改革推進センターと21世紀教育改革検討委員会を統廃合し、IR・教育支援センターを設置した。

委員会構成：センター長、IR部門長、教学企画部門長、教育支援部門長、タスクフォースリーダー、その他センター長が必要と認めた者

② 大学院改革推進委員会（旧大学院改革検討委員会）を設置

令和5年4月1日より教育改革プランの審議や実行までの迅速化を目的とし、21世紀教育改革検討委員会から大学院改革検討委員会を独立させ、大学院改革推進委員会を設置した。

委員会構成：委員長、副委員長、研究科長、大学運営本部 大学院・共通教育学生センター事務（部）長
その他委員長が必要と認めた者

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

①（令和5年度開催状況）IR・教育支援センター運営委員会：12回

② 大学院改革推進委員会：5回

c 委員会の審議事項等

① IR・教育支援センター運営委員会

(1) 学生の学修動向、教育の成果等に関する調査の実施及び分析に関する事項

(2) 学内外の情報に関する収集、分析及び報告並びに各所属が行う情報分析等の支援に関する事項

(3) 教育改革の具体的施策の企画及び教育方法の開発に関する事項

(4) 教育の質向上及び学生の能力向上に関する事項

(5) その他本学の教学・IR活動並びに教育改革及び教育支援の推進に関する事項

② 大学院改革推進委員会

(1) 大学院における教育の内容・方法に係る開発・充実及び研究の推進に関する事項

(2) 大学院生の生活支援に係る制度設計に関する事項

(3) 大学院修了生のキャリアパスに関する事項

(4) 学生募集、入学者選抜等に関する事項

(5) その他大学院の教育改革、研究支援等に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

①IR・教育支援センター運営委員会

1. 新任教員研修会の開催
2. 全学FD・SD研究集会の開催
3. アンケート実施、公表の推進
4. シラバス記載内容の改善とガイドラインの作成

②大学院改革推進委員会

1. 大学院ネットワーク院生サミットの開催
2. 大学院FD研修会の開催

b 実施方法

①IR・教育支援センター運営委員会

1. 新任教員FDの開催
大学の概要に関する講義、教育改革の取り組みに関する講義、
教育の質の向上に資するワークショップ
2. 全学FD・SD研究集会の開催
外部講師・学内教員による教育改革の事例紹介や、学修成果の可視化に関する講演
3. アンケート実施、公表の推進
授業評価アンケート・卒業アンケート等の実施・集計、結果の公表、フィードバック
4. シラバス記載内容の改善とガイドラインの作成
記載上の留意事項の作成・配布、点検・監査報告の義務化

②大学院改革推進委員会

1. 大学院ネットワーク院生サミットの開催
特別講演の聴講、口頭発表・ポスター発表と1日を通して院生間の交流を深め、大学院の教育研究の充実を図る
2. 大学院FD研修会の開催
大学院教育の実質的な体質改善に向け、外部講師による事例紹介等に関する講演

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①IR・教育支援センター運営委員会

1. 新任教員FDの開催（年3回）

◇4月

本学の概要や取組を中心に教育方針等に関する講演および、「ディプロマ・ポリシーを実現するために自分ができることは？」を題材としたワークショップを実施した。

◇8月

「授業づくりワークショップ」と題し、外部から講師をお招きして、主体的で自律的な学びを促進する教育方法を修得・実践するためのワークショップを実施した。

◇2月

「教育活動を省察する—ティーチング・ポートフォリオの枠組みを活用して—」と題し、IR・教育支援センター教員による講演および、「今年度の教育活動の省察と今後の目標設定」のワークショップを実施した。

2. 全学FD・SD研究集会の開催（年3回）

◇研究者による起業の温度

◇生成AIと大学教育

◇IRを活用した自己点検・評価と達成度評価—今、大学に求められていること—

3. アンケート実施、分析、公表の推進

◇授業評価アンケート（年2回）および卒業アンケート

◇教育活動の成果と改善のため、原則全学部・全科目を対象に実施。結果を学内にフィードバックし、学外にも公表

※授業評価アンケートについては教員ヘリフレクションペーパーの作成を依頼し、次年度の授業改善を意識づける取り組みを行っている。

4. シラバス記載内容の改善とガイドラインの作成

記載内容の充実と質保証を目的とし、作成上の留意事項を詳細に記載した資料を作成し、全教員に配布している。

またその内容に即したシラバスであることを確認するため、各学部・研究科にて点検・監査を実施し、次年度開始前を期限として学部長・研究科長等より監査報告書の提出を義務付けている。

②大学院改革推進委員会

2. 大学院ネットワーク院生サミットの開催（年1回）

◇8月

KINDAI で育む創造力と実践力～不確実性の時代を生き抜くために～

1. 大学院FD研修会の開催（年1回）

◇9月

大学技術シーズをビジネスを通じて社会貢献につなげる

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実学社会起業イノベーション学位プログラムでは、コースワーク及びリサーチワークの各科目において、Googleフォームによるルーブリック自己評価や授業科目アンケートを実施している。この内容を受けて組織的に授業科目の改善を行うとともに、質問事項に関しては次の授業において回答を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎回の授業科目終了後に、GoogleClassroomから配信されるGoogleフォームによって実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員は、Googleフォームの回答内容を毎週確認することができるとともに、次の授業改善に利活用している。また、その内容は学位プログラム運営委員会によって組織的に確認されている。

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開設後1年が経過した時点における総括評価を行うと、順調に進捗していると判断する。まず、本学位プログラムの入学定員30人に対して、64人の志願者があり、入学者の受入れ方針（AP）に則った入学試験を経て合格者38人を経て、最終入学者は29人であった。辞退した学生は、初期の入学試験受験者の多くが就職を選択する者と他大学大学院の併願であった者が多く、後半の受験者はほぼ留学生でありすべてが他大学大学院の併願であったことが認められた。定員の2倍を超える志願者があったにもかかわらず定員数を超えなかった主な事由として、学生が既に他大学院を第一希望として受験を決めていたことが大きな要因と理解している。しかしながら、入学定員の97%の最終入学者を得たことは、設置の趣旨・目的が一定の評価を受けていると判断している。次年度以降の学生募集活動は、昨年と同様に早期に実施しており、今後さらに回数を重ねることで、入学定員及び収容定員の安定的な充足に努める。

入学生に対しては、設置の趣旨・目的を実現するため、養成する人物像にもとづく学修目標を示した学位授与の方針（DP）とそのもとで設定した教育課程編成・実施方針（CP）を履修要項で周知するとともに、カリキュラムマップに従って、各授業科目を開講しており、現在まで順調に進捗している。特に、国内外アントレプレナーインターンシップにおいて2か月以上の期間においてスタートアップ企業等で実務を体験した学生の成長は著しく、その後開催されたピッチイベントでは、ベンチャーキャピタルの複数名の投資家およびNEDOの審査員経験者から学生のビジネスプランに対して非常に高評価をいただくなど、DPおよびCPに基づくカリキュラム編成とその実施が着実に成果を上げていることが確認できた。

次年度も、学位プログラムとして設定した3つのポリシー（DP、CP、AP）に則り、設置計画を適切且つ着実に履行する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和7年4月1日 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・平成19年度に財団法人大学基準協会にて受審し、平成20年3月に「適合」と認定
- ・平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、平成27年3月に「適合」と認定
- ・令和3年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、令和4年3月に「適合」と認定
- ・令和10年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。